

生きてて感謝感謝だ

一月三十一日 金曜日 生きてて感謝感謝だ

雨が 大変 きつい。
冬なのに。
雪がふれば 本当にいいのに。

しかし、朝になると
もう だいが 弱まっている。

傘もって行こうか、行くまいかと
迷ったが、
持ってゆく事にした。

しかし、家から 親月橋を渡る間は
ささなかった。
顔に当たる小雨が
僕の眠気を覚めさせた。

いつもの急行を 中書島で待っている時、
雨が 顔を濡らし、
かなり、びしょ濡れになる。

仕方なく 傘をさした。

僕は 物を かぶったり、狭いところや、
人が うじょうじょいる所や、
大勢、並んでいるのが 嫌いだ。

息ぐるしく感じる。